

## COLUMN

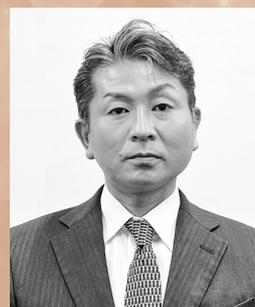
# 変化に適応していくために

高俊興業株式会社 代表取締役社長

**高橋 潤** MEGUMU TAKAHASHI

1973年 生まれ  
1996年 大学経営学部商学科卒業  
1996年 建設会社入社  
2000年 高俊興業株式会社入社  
2015年 代表取締役社長就任

一般社団法人廃棄物処理施設技術管理協会副会長、  
一般社団法人東京都産業資源循環協会常任理事 建設  
廃棄物委員長、公益社団法人全国産業資源循環  
連合会 業務主任者試験等準備検討委員会委員 人  
材育成方策調査検討委員会



今年の夏は例年に比べると平均気温が2～3℃高く、かなり暑い日々を過ごした。熱中症対策に苦慮した企業も多かったのではないかと思う。

冒頭の題名は、かの有名なチャールズ・ダーウィンさんが「種の起源」という著書の中で「最も強いものが生き残るのではない。変化に適応するものが生き残る」という言葉を残している。今後、温暖化対策が加速化していくと思われるが、「暑さ」に適応していくのも一苦勞である。

「甲辰」の年は、「成長」と「変化」を誘う年とも言われている。

4月には私達の事業にも密接な関係にある「建設業」と「運送業」においても、働き方改革が施行された。もともとの推進目的は「労働者にとっての働きやすさを実現していくこと」であり、「多様な働き方が選択できる社会の実現を目指すこと」が狙いである。これらに加えて労働生産性の向上に努めた上で、「働く環境の整備」を図らなければならない。現状は、「労働生産性の向上」が他の施策と比べても追いついておらず、改めて「両

輪」の大切さを痛感しているところである。片方だけ良くなっても、もう片方が悪ければ、物事はなかなかうまくは進まない。

5月には「資源循環の促進のための再資源化事業等の高度化に関する法律」が成立した。この法律により、従来ある「適正処理」に加え、「資源循環産業」の発展に大きく寄与していくものとして、期待するところである。脱炭素化と再生資源においては、質の向上と量の確保に向けた高度な取り組みが、我々の業界においても今後ますます必要となってくる。

時代の進化もあるが、年を重ねていくにつれ、「変化」のスピードが、かなり早くなっている感覚がある。「変化に気付き、敏感に対応していくスピード感がないと生き残れない」ということを肝に銘じて、今後の事業運営に努めていきたいと思う。その反面、「変えてはならない」大事なものも世の中には沢山あるということも忘れないようにしたい。